

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1階)

事業所番号	2793000304		
法人名	株式会社 You I		
事業所名	グループホーム菅原		
所在地	大阪府大阪市東淀川区菅原町3丁目18-23		
自己評価作成日	令和3年2月10日	評価結果市町村受理日	令和3年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年2月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を抱えながらも、ご本人なりに懸命に生きようとされている利用者様のあるがままを受け入れ、自由に、気ままに生活を維持できるよう努めています。日々の日課を押しつけることなく、その日その日のご本人本位の生活リズムに合わせて支援しています能力的に出来る事はドンドンとしていただき、したいけど能力的に難しい場合も最大限の支援をさせていただき、能力的に出来るがしたくないことを強制されない暮らしを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は大阪府下に障害者施設1ヶ所、高齢者介護施設2ヶ所を運営している。事業所は3年前に3ユニットで開設したが実際は2ユニットで運営を開始し3年目を迎えて3ユニットの体制が整い現在に至っている。住み慣れた地域で安心・安全な暮らしのお手伝い、共に喜び、悩み、考え、信頼の友愛精神を重視した法人理念のもとに、一人ひとりの生活環境に合わせた個別的な支援体制がある。徒歩5分圏内の保育園とは園児との訪問交流、公園で開催される秋や夏祭りには最初の運営から関わり、櫓の組み立てやゴミの収集、夜店への出店等々にかかわっている。病院とは発熱や転倒による怪我にも対応してもらえる連携可能な支援体制を構築して、地域とは深いかかわりの中で安心、安全な生活が送れる環境整備がある。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念に紐づけされた「私たちの宣言」を作成し、職員には入職時と折に触れ実践している。	法人理念のほか事業所では、一人ひとりに個別の対応、その人らしい暮らし、地域との交流、利用者の尊厳を大切に否定しない、評価、矯正しないの5つの目標(私たちの宣言)を掲げて朝・夕の申し送り時に振り返りを行いながら業務にあたっている。フロアの出入り口や事務所に理念を掲げて共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域との関わりは少なくなっている。  近隣の美容室とは二か月に一回行っている。	地域の自治会への加入はないが、自治会会長が運営推進会議への出席や地域行事の連絡を電話で知らせてくれるなど交流を図っている。地域の方からは認知症に関する様々な相談を受け必要な支援の仲介役を受けたりして交流がある。コロナ禍の中で中止となっているが事業所のイベント時には焼き芋交流なども行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての偏見をなくすよう、認知症や介護でお困りの方の相談に乗っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本参加者は管理者、ケアマネ、町会長、地域包括、ご家族、ご入居者であり各々の意見を尊重し出来る限りの対応を行っている。昨年の4月からは、集まることは出来ず、個々で家族様にお話しをしたり電話での状況説明をし書面で郵送しています。	会議は年6回自治会長、家族(2名)、利用者、地域包括支援センターの出席のもとに奇数月に行い行事報告や事故報告、今後の運営などの報告を行っていたがコロナ禍の中で中止となっている。	会議は今までの出席者や家族に向けて書面会議で行い、コロナ禍でも実施している。行事やこれからの行事予定を報告して意見を集め、今後の課題や運営報告を行い、サービス向上につなげられるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重大な事故の報告や、利用者様、家族様などの対応について分からない事は相談をしている。	市の保健福祉課や介護保険課には生活保護の利用者が19名居られ、さまざまな報告や相談事項で訪問している。ケースワーカーの訪問もあったが現在は中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束適正化のための指針」やマニュアルを作成し、身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を3月に1回開催している。	身体拘束適正化委員会を立ち上げて3か月に1回の委員会を行い指針を整備して年3回の研修を行っている。玄関やユニット間は施錠しているがセンサーマットの使用はなく転倒しやすい利用者には予防として、ベッドをやめて床に布団を敷くなどの工夫で、転んでも怪我をさせないなどの配慮がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	二か月に一回で会議を実施し、適正な対応をするように周知を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない方には成年後見制度を説明しご利用いただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約行為については書面を利用し説明と、疑問点があればその都度対応しています。  医療との契約などは、家族様と病院で話し合っていたり、病院、訪問看護も家族様が選択できるように配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙を玄関付近に用意している。	家族会の開催を年1回行い交流していたがコロナ禍の中で中止となり、遠方の家族や希望される家族には行事ごとに写真付きのメールで送信している。今後はリモートや窓越し面会を視野に入れた面会方法を検討しようとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日カンファレンスを行い、考え方や、今後について話す場をもっている。  フロア会議を実施しているが、コロナウイルスがあり全体での会議は延期しています。	法人からの自己評価シートのもとに都度の面談、管理者とは今後の個人目標や考え方の取り方等々で年1回面談が行われている。コロナ禍の中で全体会議はないが、フロアごとに会議を行いモニタリングやカンファレンスを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績によっては、給料を上げるなど行っている。また、有休についても積極的に使用できるような環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの実施 認知症実践者研修参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの影響でなくなっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「私のプロフィール」を作成し、ニーズの把握、人物の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初のご相談時から耳を傾けている。コロナウイルスで不安になられている家族様には、電話やドア越しの面会など最大限の配慮はしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	規定にない対応であっても必要に応じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護の場」ではなく「生活の場」を重視し関わっているためか、かなりその人らしい「発言」が見受けられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各々の家族関係の実情に配慮した改善を試みている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響で馴染みの所などに行けなくなっている。	入居以前の生活歴などを以前のケアマネや家族から聞き取り独自のアセスメントシートのもとに支援していたが現在はなく、理容や美容室には利用者全員が職員の同行の下に出かけている。電話での支援はいつでも可能であり、最近では絵ハガキにて近況報告を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	独りを好む方もいらっしゃるので、その人にあつた関りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はまずご本人の意向をお尋ねしその実現を目指している。	一人ひとりの希望や困りごとに向き合って記録に残し、職員はユニットごとのカンファレンスにより共有している。家族との疎遠になっている利用者もあり、昔のアルバムやメモなどから情報を収集したり、医療連携などで情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を重視し、床に布団で寝ておられた方の部屋からはベッドを撤去する等の対応をしている。 起床時間や就寝時間も、以前のような生活をしていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスで情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズを施設内で完結するのではなく、家族様にも参加していただいて、実現できる方法で作成しています。	サービス担当者会議に家族や担当職員の出席、朝夕のカンファレンスや3か月ごとのモニタリングで広く意見を集め、短期は6か月、長期1年ごとに介護計画の変更を行っている。家族には郵送にて計画の変更を伝えて説明を行い署名を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録、ケアチェック表、5分カンファレンスなどを利用して情報の共有とモニタリングに反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の家族様や、身寄りがない方には、決まっているサービス外の提供も実施している。		
29		がり 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりとして美容室に行っている。その他はコロナウイルスの影響でできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週1回の訪問診療。契約時に確認をおこない文書として残している。	今までのかかりつけ医への受診には精神心療内科や整形外科、内科への受診があり家族や時には職員の同行のもとに行っている。協力医療機関からは内科や歯科の往診が月2回眼科の往診が月1回あり希望者が受診している。訪問看護ステーションからは毎週訪問があり健康管理がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携医療機関との関係は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い方では、見学の時にターミナルの話はしています。グループホームの設備や出来る範囲など隠すことなくお伝えしています。	「重度化に対する指針」のもとに契約時に事業所として出来ること、出来ないことの説明を行っている。医師から終末期に入ったとの診断のもとに医療行為がなく、家族の協力体制を確認したうえで職員研修を行い多職種の連携のもとに役割分担を行い、チームでの支援体制を構築しようとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	システムは構築しているが、実践力はまだ身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との話し合いはしている。何かあった時は自治会長さんと連携して互いに助け合うようにしています。	法定の年2回の災害訓練を日中、夜間想定のもとに行っている。備蓄は水・コンロ・お米・ラーメン・おかゆなど3日分が3階の倉庫に保管されている。現在地震時には自治会から見回りに来てくれる約束はあるが、火災時の協力連携体制は取れてなく不安が残る。	近隣は工業地帯でありマンションも多く地域連携は難しい状況である。淀川が近く、地震や台風時の水害対策資料を作成して1階には重度の方は入れない、垂直避難など対策を考えているが、更に近隣の保育園やコンビニエンスストアなどの連携も視野入れた協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重しプライバシーの確保をしています。また、研修等を実施し職員全員で取り組んでいます。	接遇、プライバシー、尊厳の研修を毎年行っている。利用者には基本は名字でさん呼びとしているが、家族からの要望でちゃん呼びとしている方もいる。優しい言葉遣い、声の大きさにも気を付けて、羞恥心に配慮し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけの対応がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉では十分伝えることが困難な場面において表情や全身状況から感情の表出が出来るよう支援します。日々の中で表現される言葉だけではなく本質をキャッチできるように本人の希望や好みを把握します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の動きや希望に合わせて適切な関わり方をし一日の過ごし方を柔軟にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性や希望に寄り添い、ヘアースタイルや衣服を選んで頂けるよう支援します。好みの化粧品も使っていただけるよう支援します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には野菜の皮むきや根取り、調理や盛り付けなどを一緒にコミュニケーションをとりながら行っています。また、お盆の片付けや食器洗いの手伝い、お盆拭きなどもして頂いています。	食材は専用の業者からチルド状態で配達され汁物は朝、昼、夕事業所で手作りしている。利用者は職員の協力を得ながら刻んだり、煮たり、揚げ物も行い、誕生日のケーキも手作りしている。季節のイベントや行事食にはおせち料理、巻き寿司、ぜんざいなど利用者の好みのものを力を合わせて楽しみながら調理する等の支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分、おやつ摂取状況などを記録し、安定的に摂取できているか確認し、継続的に摂取量の低下が続く場合は、捕食を試みたり、医師に相談し指示をうけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じて見守りや介助を行っています。また訪問歯科と連携し、一人ひとりにあわせた口腔ケアの指導をうけています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄能力やパターンを把握し、定期的にトイレの声掛け、誘導を行っています。また排泄動作も、ご自身で出来ることは継続して行ってもらい、維持できるよう支援しています。	排泄はトイレ誘導によりほとんどの方が自立しており日中はオムツからリハビリパンツになった方や布パンツにパットなどの改善例が見られた。夜間はポータブルトイレ(3名)を使いながら定時見回りによりタイミングを見ながらの支援体制がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを毎朝の朝食メニューに組み込み便通を促しています。また定期的な水分補給や体操なども行い、できるだけ自然排便が促されるよう取り組みを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の入浴日や時間は決まっていますが、希望がある場合は柔軟に対応できるよう努めています。	入浴は週2回午前、午後は問わず一人ひとりお湯を変えながら、自由な時間帯での支援体制がある。本人の希望で清拭やシャワーのみを希望する方にも強要することはなく出来る限り同性介助を心掛けている。季節によりゆずや菖蒲湯などで楽しむ工夫がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事への参加や活動、レクリエーションを行い、夜間はゆっくりと安眠していただけるよう努めています。また体調や状況にあわせてお昼寝などもして頂いています。寝具なども定期的に交換し気持ちよく睡眠がとれるよう環境整備にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の定期薬等の薬情は常に新しいものを、各フロアにファイリングされており、職員は常に確認できるようにしています。また、変更時は連絡ノートや申し送りでも情報共有し、服用後の状態変化について記録し職員間で共有しながら確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく一人ひとりが得意な部分で家事などの役割を持っていただけるよう支援しています。またお好きな事を日々の会話や様子から把握し、レクリエーションに活かしたり、行事開催などで楽しみのある生活になるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつも希望通りにはいかないが、散歩などはできるだけ行くようにしている。コロナウイルスの影響で買い物などは行けなくなっています。	コロナ以前は神戸まで海を見に行ったり、桜の花見、家族と旅行や外食など自由な外出支援があったが、コロナ禍の中で車での遠出は中止となり、最近は近隣の公園までの週4回の散歩で地域の方と挨拶を交わすなどしている。今年は駐車場で花火をして炭酸水を飲み夏を満喫した。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失を覚悟で手持ちをされている方あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		共用のリビングには生花や職員とともに手作りした季節のイベント(クリスマスツリーや正月飾り等々)に合わせて、色紙で作った壁飾りが飾られて利用者が季節を感じやすくしている。以前はこたつも置いていたがスペースがなく、今は一人掛けのソファが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは椅子の配置を検討して自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にお客様のお気に入りの物や使い慣れた物を持ってきていただき、心地よく過ごして頂ける様にしている。	居室は、ベッド、防災カーテン、エアコン、クローゼットが備え付けられ、利用者は冷蔵庫、電子レンジ、仏壇、普段使用していた家具などを思い思いに持ち込み、居心地よく過ごせる工夫が見られた。清掃は週に1回職員と共に行い、清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	髭剃りや整髪など一人ひとりの自立支援に努めている		